

写され、腹部、胸部リンパ腺の描出は困難であった。

悪性リンパ腫における、リンパ腫の全身分布の検索は、その診線上、治療対策上重要な意義を持つので、本法がこの方面にどれだけの意義を持ちうるかをさらに検討した。

36. ^{67}Ga -Citrate による腫瘍スキャンニングの経験

日本医科大学一放射線科

○山岸 嘉彦 斎藤 達雄 清水 浩
加藤 富三 渡辺 庄造 青山 文七
小俣 則夫 伊藤 正 西尾 豊彦
長谷川正浩 竹中 清次 渡部 英之
野本 宏 行武 純一 椎葉 忍
寺井 勇

〔目的〕 ^{67}Ga -citrate によるスキャンニングにおいて、これが腫瘍に取込まれることは1969年 Edwards らにより報告され、わが国でも報告が見られるようになってきた。われわれもこの RI を入手し、腫瘍スキャンニングを行ってきたが診断上更に放射線治療を行なった症例の経過判定上有用であったので、以下に報告する。

〔方法〕 ^{67}Ga -citrate を 1 mCi~2 mCi 静注後 1 日~2 日~3 日にスキャンニングを行なった。使用したスキャンナーは東芝製 RDA-106-6 形を使用、適宜カラースキャンニングをも併用した。放射線治療を受けた症例については、その照射前、中、後のシンチグラムを X 線フィルムと共に読影し経過判定の一助とした。

〔結果〕 現在30例（抄録メ切時）の経験をえたが、その結果は次のごとくであった。またこれに関するいくつかの検討、考案を述べてみた。

	^{67}Ga - 沈着				
	3	+	+	±	-
腫瘍例（手術により摘出されたもの）	3	0	0	0	3
腫瘍例（組織診断のついたもののコバルト照射例を含む）	19	6	10	1	2
腫瘍例（X 線的、臨床的に診断したもの）	4	2	0	1	1
非腫瘍例	4	0	0	0	4

※：著明な沈着がみとめられるもの

＋：著明ではないが沈着あるもの

±：判定困難

-：沈着なし

37. ^{67}Ga -citrate 使用による各種腫瘍シンチグラムの結果の分析

東京大学 放射線科

白瀬 郁光 宮前 達也 亘理 勉
分院 放射線科 安河内 浩

悪性腫瘍の RI による陽性描出は、これまで数多くの研究者によって追求されてきたが、現在では Edwards らの報告を最初とする ^{67}Ga -citrate によるものが最も有用な結果をもたらせていると思われる。

われわれも昨年から各種の腫瘍について症例を重ね、その数は約 110 例となった。全症例の結果を一括してみると、 ^{67}Ga -citrate は確かに 1) 腫瘍陽性率は高いが、すべての悪性腫瘍に取り込まれるわけではない。2) 明らかに炎症と思われる症例でも陽性像がえられることがある。3) 同一臓器で同一般織像をもつ悪性腫瘍でも取り込みの差が著明である。何故このような多彩なパターンを示すか、これについては ^{67}Ga -citrate の取り込みの機序が解明されていない現在、説明は困難である。そこで臨床データの蓄積から ^{67}Ga -citrate の腫瘍親和性の傾向をとり、これからの方向づけが必要となる。

われわれは次の点にポイントをおき症例結果の分析を行なっている。 ^{67}Ga スキャンの結果判定基準は、 $++$ 、 $+$ 、 $-$ の 4 段階とした。

① 臓器別、病理組織学的分類 最も陽性率の高いのは細網肉腫、骨腫瘍並びに肺腫瘍であった。眼窩内腫瘍は対象が小さいのでスキャンニングは一般に不利であるが、現在摘出標本カウントで検討中である。腹部臓器では腎癌の陽性率が高かった。肝はグラム当りの集積が高いのと厚みできいてくるので、他の腹部臓器と異なった特殊性をもつ。結局、巨大な肝癌のみが陽性像としてえられた。一方、悪性腫瘍で陰性なのは甲状腺癌(乳頭腺癌)に多かった。

② 放射線照射との関係 陽性率の高い細網肉腫、骨腫瘍並びに肺腫瘍が対象となるが、われわれは少なくとも照射前、中、後の 3 回スキャンニングを実施して放射線効果と取り込みについて検討中である。

38. ^{67}Ga -citrate による腫瘍シンチグラフィーの

臨床的評価

千葉大学医学部 放射線科

○内山 暁 三枝 俊夫 寛 弘毅
有水 昇 油井 信春

〔目的〕 ^{67}Ga -citrate が悪性腫瘍に集積する可能性を